

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000986), 法人名 (ハピレ株式会社), 事業所名 (あすなるの家 (1F あやめ)), 所在地 (小樽市幸2丁目22番3号), 自己評価作成日 (令和元年12月20日), 評価結果市町村受理日 (令和2年3月11日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000986-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ), 所在地 (札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号), 訪問調査日 (令和2年1月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小高い丘の緑に囲まれた、環境の良い住宅街に位置しており、隣接しているグループホームとの間には畑があり、春には野菜の苗を植え、夏から秋にかけ野菜の収穫を行い、採れた野菜を調理し食事で頂いています。イチゴも植え利用者と一緒に収穫を楽しんでいます。動物セラピーも取り入れ犬1匹を飼育し、利用者とおやつをあげに行ったり、外出レクの際、東屋に犬を連れて来て利用者と可愛がっています。毎年恒例のホームのお祭り(あすなる祭り)には、家族や地域住民も参加され利用者も楽しみにしている一つです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は眺望の良い丘の上の住宅街にある鉄筋コンクリート造り地上2階、地下1階の建物で、1階と2階に各ユニット、地下1階には小規模多機能事業所、隣接して同法人が運営する「グループホームあすなる」がある。3事業所合同の「あすなる祭り」には、地域住民や利用者家族も多数参加して交流を深めている。職員と利用者は、町内のお祭りや資源回収などに参加して地域と交流している。前庭にはセラピー犬の犬小屋があって近隣の子供達も訪れ、利用者との交流の場となっていたが、高齢の為隣接の施設に留まっている。隣接している町内会館で、幼稚園児のお遊戯の発表会があり、利用者との交流を深めている。共用空間の居間は、南向きで明るく、温・湿度などが適正に調整され、大きな窓からは、遠く山々や市街地を望むことができ、季節の移り変わりなどを満喫することができる。居間の壁には、利用者と共に作成した季節感のある飾りつけをして、家庭的な落ち着いた雰囲気となっている。職員は、各種委員会、外部、内部研修に参加して、質の高いサービス支援の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding needs, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内、休憩室に提示しています。また提示している。あすなろ便りにも毎回提示し、いつでも目に触れる事が出来るようにしています。	玄関や各ユニットに理念を掲示し、職員は理念を記したカードを持参している。地域密着の有り方や日々のケアについて職員は課題に取り組み、支援の向上を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事等への参加（資源回収・お祭り等）他ホームのお祭りに町内の方に参加して頂き、交流を持っています。	町内のお祭り等に利用者も一緒に参加して地域住民と交流している。神輿が前庭に立ち寄り、利用者を楽しませている。3事業所合同行事「あすなろ祭り」では、おたる潮太鼓保存会によるイベントがあり、地域住民、家族など多数が参加し、利用者や職員と共に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症についての研修を行ったり、支援方法等について話し合いを活用しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、事業所での行事内容の報告・ヒヤリハット・事故報告書の報告や、認知症に関する研修等を行い委員の方々の意見・感想を頂いています。ホームに関する意見・要望も頂いています。	年6回開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族などが参加して、事業所の運営状況の報告や避難訓練の報告、災害対策などを報告し、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。また、議事録は、家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内を送り、出席して頂けるよう努めています。また生活保護受給者に関しては、必要に応じ担当者に状況の報告をしています。退出書類の代筆も行っています。	市の担当者や地域包括支援センター職員とは、介護保険の更新や生活保護手続き、待機者等の運営の相談等を行い、意見や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・リスクマネジメント委員会があり、全職員に向けた研修を行っています。玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束委員会と虐待防止委員会があり、職員研修を実施している。研修へ参加した職員は身体拘束廃止に向け、伝達講習を行い、理解を深めると共に、身体拘束をしないケアに努めている。センサーマットを利用する場合には、家族に書面にて同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・リスクマネジメント委員会にて職員からの意見・要望を取り入れて研修を行い、日々のケアに活かしています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人の方の来訪が毎月あり、様子を報告したり都度連絡・相談も行い、話し合う機会をもっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明し不安や疑問点について話し合い、理解と納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・要望は記録し職員間で申し送り把握に努めています。家族からの意見・要望も電話や来訪時に記録し、把握出来るようにしています。	玄関に意見箱を設置し、毎月「あすなろ便り」のコメント欄に利用者毎に生活の様子等を記載し、家族に現状報告をしている。家族の来訪時や電話連絡の際には意見や要望等を聞き、得られた情報は来訪記録やフロア一日誌に記載し、申し送りを行いながら職員間で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所、フロア会議等での意見を管理者がまとめ、毎月の管理者会議で議論、結果を事業所にフィードバックしている。管理者で判断がつかない場合など状況に応じて取締役による個人面談も実施。	管理者は朝夕の申し送り時やユニット会議で、職員の意見や要望を汲みあげるよう努めている。個人面談も必要に応じて随時行っており、職員から出された意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、取締役会議に全部門の月次収支を把握、勤務状況は勤務表にて確認している。これらをもとに待遇面では、職責に応じた給料の決定、及び処遇改善を毎月支給するとともに、業績や職責に応じた賞与を年2回支給しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に小樽市グループホーム連絡協議会の副会長がおり、年3回の研修の立案・調整を行いながら職員の参加を促している。外部との連携による兼風以外に、グループ2社で委員会を実施し合同の研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同上、職員が地域の協議会の中核を担う事で、同業者とのつながりを構築し、同時に外部との交流を図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安などに傾聴し、生活歴・病歴・家族関係を把握し、関係づくりを第一に考えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の意見や些細な不安にも傾聴し、協力を得ながら信頼関係を築いていくように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の不安や要望などに傾聴し、色々な情報も提供しながら必要な支援は何か一緒に話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、個々の出来る事を考えたり、何処を支援すると出来るかを考えながら、関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に本人の様子を伝え、家族との関係も密にし、家族と一緒に支援出来るよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪しやすい雰囲気を作り、馴染みの方と本人がゆっくり過ごして頂けるよう努めています。	馴染みのかかりつけ医への支援や、家族の同行で思い出の場所や馴染みの美容室に行くなど、馴染みの関係を継続させている。友人、知人の来訪時には、落ち着いてゆっくり過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いを持てるよう、職員が中に入り利用者同士の関係を考えながら行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族と連絡を取り、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より利用者の様子や、会話から要望や意向を聞き、把握できるようにしています。	利用者の表情や仕草、日々の会話等から思いや意向を汲み取り、記録に残し職員間で共有している。出来るだけ希望に沿えるように、家族等に働きかけをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をファイルにまとめ、いつでも確認出来るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや状況・行動を話し合い、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人との話し合いで意見・要望を聞き、必要な支援が出来るよう努めています。	利用者と家族から介護に関する意向を聞き、カンファレンスをして職員の意見を反映させながら6ヶ月から1年で見直しを行い、ケアプランを作成する。作成後は家族に説明し同意を得ている。状況変化時は現状にあったプランを作成する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を職員間で情報を共有し、主治医・看護師の意見も聞き入れ、本人に合った介護計画書を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々の生活の様子を記録し、次のプランに活かすよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事やお祭り・資源回収などに参加させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と話し合い、かかりつけ医を決めています。また新たな病院を受診する時は、本人・家族と相談し必要な科を決めています。また受診結果を家族に報告しています。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医に受診し、職員が同行支援をしている。2週間で1回の協力医による訪問診療を行い、利用者の健康管理を支援している。急変時の対応には、協力医による24時間体制をとって対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師へその都度報告・相談をしています。また主治医に身体状況の報告を行い、その都度指示を頂き対応に努めています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医に利用者の身体状況や治療内容を伺い、状況を把握すると共に、今後の方針の相談を行っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの対応の可能・不可能な事を早い段階から家族と話し合い、主治医からの状況説明を含め、今後についての方針を決めさせて頂いています。	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」に基づき、利用者、家族に説明し、理解を得ている。重度化が認められた早い段階で主治医の説明を踏まえ、利用者や家族と協議し、希望に添えるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア内に応急処置のマニュアルを置き、職員全員がすぐに対応できるよう努めています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、対策に努めています。また夜間を想定した避難訓練も実施し対策へと努めています。	防災マニュアルに基づき、年2回、昼夜の災害を想定し、消防署の指導を受け避難訓練を実施している。事業所は町内の一時避難場所として登録されており、隣接している町内会館も避難場所となっている。	平成30年9月の地震災害で体験した長期間停電が冬期間に発生した場合を想定し、備蓄品（ガス暖房器具、食料品等）の点検や不足品などの充実を図る事を期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の自尊心・人格を配慮し、本人に聞こえる声の大きさや距離等に心がけています。	利用者の人格尊重と誇りやプライバシーを損ねない声かけ等は、各ユニット会議などで研修を行い、理解を深め、利用者一人ひとりに合わせた対応に心がけている。トイレ誘導や入浴時など、プライバシーを傷つけないように利用者に優しく接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が個々の思い・考え・希望等を発信しやすい環境や状況づくりに努め、個々との関わりから思いをくみ取り、利用者本人が決定する事が出来るよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合った生活リズムを優先し、本人の希望に添えるよう努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の好みに合わせると共に、季節・気候に合った服装へと配慮に努めています。			

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る事を把握し、力量に合ったお手伝いを行って頂いています。テーブル拭き・おしぼり配りや食器拭き・食器の片付け、時には食器すすぎもお願いしています。	食材と献立は外注し、季節の行事食や誕生日会などは、利用者の希望を聞いて献立を作成し、楽しい食事ができるよう心がけている。焼肉パーティ、寿司パーティ、漬物作りなどが年間行事として取り組んでいる。利用者は、能力に応じて、職員と一緒に下ごしらえや食器の片付け等を行っている。畑で収穫したトマトなどが食卓を飾り、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量・水分量を確認し、チェック表に記入し、個々の状況を確認しています。水分量が少ない時は都度すすめています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを行っています。力量を把握し見守りや介助を行っています。夕食後はポリデント洗浄を実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄状態を把握し出来るだけトイレでの排泄を促し自立に向けた支援を行っています。	排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、適時の誘導でトイレでの排泄支援に努めている。トイレへの誘導時には、自尊心を損なわない配慮や心がけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳を提供したり便秘時はホームの看護師や主治医と相談しながら下剤の調整を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めています、個々の希望・タイミングなど状況に合わせて入浴して頂いています。	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望に添えるよう支援している。ひのき造りの浴槽が、浴室の真ん中にあり、介助する職員は負担なく容易に入浴させることができる。また、利用者がリラックスできるよう心がけており、歌や会話をしながら入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、状況に応じて自室やソファなどで休んで頂くよう声掛けし誘導しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の内容を確認し、把握できるようにフロアー内に説明書をファイルにして保管しています。薬のセットは複数の職員が確認し、服薬の時は声を出して確認してから服用して頂き、服薬後はチェック表に捺印しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かした活動・お手伝い等を見つけ、職員とコミュニケーションを取りながら張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう努めています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿えるよう努めています。家族と外出される方もいます。外でのレクも企画し外出の機会を増やすようにしています。	前庭や中庭、東屋、菜園等があり、利用者は、散歩や日光浴、畑作業などを楽しんでいる。町内会主催のりんご祭りに出かけたり、季節が感じられるよう、花見や紅葉を楽しむための外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力量に応じ、お金を使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時は、その方の状態に応じて職員が取次をしたりして電話をしています。手紙のやり取りをされている方はいませんが希望があれば支援します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の湿度・温度は、確認しながら換気を行い、テレビの音量は不快にならない様に調整したいと思います。	リビングから山々や市街地が見渡せ、清々しい雰囲気醸し出している。利用者と職員と一緒に作成した飾りつけや行事の写真などを掲示して、季節感あふれる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺から外の景色を眺め過ごせるようにしたり、長椅子を置いて自由に座り、お喋りが出来るようにしています。自席からもテレビが見られるよう配置を工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、自宅で使用されていた家具等を持ってきて頂き、環境に慣れ居心地よく過ごせるよう努めています。	使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込み、思い出の品や写真などを飾って、雰囲気作りにも工夫を行っている。清潔で安心できる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事や分かる事を見極め、職員見守りのもと少しでも自立された生活が送れるよう支援しています。		